北海道山行報告

【山域】 北海道中部・西南部

【メンバー】 CL 菅井修 SL 井上里美 寺崎眞理(記録) 杉山喜代枝

【日程】

- 7月21日 千葉 12:00→外環道→東北道→9:00 青森港 カーフェリー海割 22:25
- 7月22日 2:05 函館港→5:45 登山口→6:40 馬の背→7:30 登山口→8:00 大沼公園 10:00 →旭川→16:20 天塩ヒュッテ(泊)
- 7月23日 ヒュッテ 5:30→8:20 前天塩→10:00 天塩→10:55 避難小屋→ヒュッテ→ 糠平ユース(泊)
- 7月24日 糠平ユース→橋梁散策→12:40 白雲山登山口→14:25 白雲山→15:40 登山口→ ユース(泊)
- 7月25日 糠平ユース→三国峠→糠平ユース→洞爺湖有珠山ジオパーク→有珠山→ちはせ川温泉(泊)
- 7月 26 日 ちはせ川温泉 5:00→登山口 6:00→9:20 狩場山→12:20 登山口→ 12:50 ちはせ川温泉→函館
- 7月27日 青森→東北道→外環道→千葉

【報告】

7月23日(火) 函館 霧雨 大沼 薄曇 日高 快晴

22 日明、函館港に着く。天候は芳しくない。近くのコンビニエンスストアの店員曰く、「数日はぐずついた天候だろう。」 がっかりしていると、菅井さんの「もっと東に行くので、大丈夫だ。」との予想が当たった。 函館から駒ヶ岳を目指して大沼公園に行くが、登り口



がなかなか見つけられない。早朝なので、人通りはない。探しまわり、杉山さんがやっと地元の人を見つけた。駒ヶ岳の入口に車を停める。山道は大きくえぐられ、雨が勢いよく流れる様子を思わせた。





しかし、その両側には低木や草花が育ち植物の生命力を感じさせる。

仮山頂の馬の背に着く。ここから先は登山禁止。あいにく霧で周囲は全く見えなかったが、 井上さんの説明で何となく感じることができた。

時間があるので、大沼国定公園の散策。公園はとても広く、気持ちがいい。出会う人も少なく、のんびり散策できた。小沼には水連が覆いつくし、その中にコウホネの黄色が目に付く。水連の近くには小さな水鳥の夫婦が巣作りをしていた。メスが小さな水草の茎を2~3本ついばむ間に、オスはその2~3倍の時間潜り。長い水草を採っていた。なかなかの働きものである。







広い公園は順路のナンバリングがしてあり、迷わず歩けるようになっている。

室蘭を通って札幌に向かう。室蘭は製鉄の町だが、商店街はシャッターが下ろされ、人出はなく、静まり返っている。ここもシャッター商店街だった。

宿泊先の「天塩ヒュッテ」は2階建てのログハウスで、大きな炊事場も完備、大勢がキャンプできるようになっている。ログハウスの中にはちゃんと流し台まで作られていた。至れり尽くせり、である。我々は2階を占拠。宿泊者は我々の他に男性1名だった。

暗くなるにつれて、全く明かりがない夜空で天の川が、満天の星で夜空は覆いつくされた。 北斗七星やはくちょう座は見つかったが、あまりにも多くの星で正座はよくわからない。ヒュッテの大きな窓からは、寝たままで星々が見られ、別世界にいるよう。恐らくここまで考えて設計されたのだろう。大らかな設計が嬉しい。この「天塩ヒュッテ」は無料である。北海道の懐の大きさを実感した。

井上さんのリサーチによると、担当者の方が部屋の掃除や備品を揃えにみえたらしい。 避難小屋や無人の施設を使用するとき、始めに簡単に掃除をすることが多いのだが、塵一 つ落ちていなかった。

7月23日(火) 午前晴 昼霧 午後晴 この日、井上さんはすぐ下の川で魚釣り(収納



式の釣り竿、餌のブドウ虫の用意はさすが!)。 菅井、杉山、寺崎の3名は5時半出発で、「前



天塩→天塩岳」に向かう。道の両側にはフキが生い茂り、ひんやりして気持ちがいい北アル

プス入口に生えているフキがコロボックルのフキだと思い込んでいたが、茎が長すぎるのが 気になっていた。北海道のフキは正真正銘コロボックルのフキだと思う。コロボックルは北 海道に住んでいる。大きな葉に短い茎のフキは、コロボックルの雨宿りにはちょうどいい。 ずうっと気になっていたことがこれで解決だ。





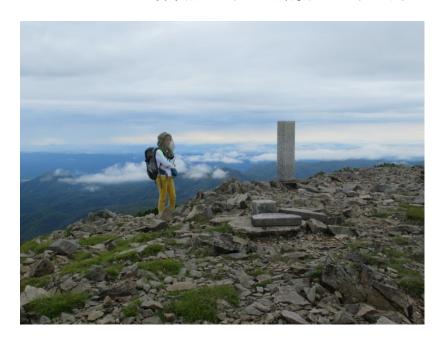




天塩岳へ直接向かう道と分かれるとまもなく登山道は、火山岩塊の大きめの石の道になり歩きにくかったが、そのガレの間に可愛らしいコマクサが見られ、白いコマクサもいくつか咲いていた。8時20分、前天塩山に到着。周りは低い雲に覆われ、霧も迫ってきた。雨を心配し、早々お花畑の稜線をずうっと歩いて天塩山1558mに到着

8時20分、前天塩山に到着。周りは低い雲に





覆われ、霧も迫ってきた。雨を心配し、雨を心配し、早々お花畑の稜線をずうっと歩いて天 d塩山 1558m に到着。





雨になるかも、と思いきや、晴れてくる。山頂から、歩いてきた前手塩が大きく見える。 天塩の下りの登山道には大きめの石の破片が敷き詰められている。登山道が削られるのを止めるためだろう。その両側は登りとは打って変わって、花々が咲き誇るお花畑だった。

下山路、三角屋根で囲まれた避難小屋があった。ロフト付きで、中には避難用のシュラフ







レの、全く同じ形が面白い。安全に気を配り、かつ登山者の気持ちを和ませる、施設の設計者はどんな人だろう。小屋の前から三角錐の天塩岳が美しい

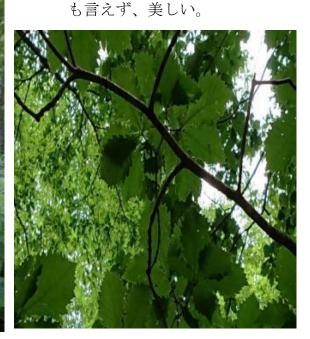
帰路、天塩ヒュッテ近くなり、井上さんの姿が見えた。「釣れた?」と大声で聞く。かなり釣れたらしい。 用意周到、オショロコマのから揚げができていた。私 たちの帰る時間を見据えての提供。魚が苦手な私もあまりの香ばしさについ、何度も手を伸ばしてしまった。



7月24日(火) 朝雨 石狩岳登山を断念 後曇

宿で聞いた廃線跡と近くの手頃な山のハイキングとした。廃線鉄道線路跡はどこまでも真っ直ぐ続いている。所々おおきなフキが繁り、姥百合が咲いている。その路線が沢や川にかかるいくつもの崩れかけたアーチ型の橋梁を幾つか見た。 その橋梁上に、井上さんが以前見かけた時と全く同じ場所に、脱いだばかりの殻の傍に蛇がとぐろを巻いていた。ひょっとして同じ蛇? 壊れた橋梁は蛇の住処にもなっているらしい。光を通した木々の葉の影が何と







これらの橋梁はかなり有名らしく、写真を撮るために来るマニアも多いとのこと。



ガソリン補給のため 20km 先の町まで往復。12 時前、然別湖側登山口に向かい白雲山に登る。ちょっと南アルプスか日本庭園か、と思わせる登山道を通。樹林帯では葉先が少しピンクになっているマタタビが目立つ。白雲山山頂近くは全く景色が違う、大きな岩がごろごろした山だった。雲海が流れ、幻想的である。白雲山はという名はここからきているのか、と納得。













下山で見えた湖面はやはり周りの景色を鏡のように映し込み、独特の風景をつくっていた。

7月25日(水)朝曇→晴

早朝三国峠に行った。よくもまあ、こんな道路を造るものだと感心するぐらい、山から山に架けられた長い道は圧巻だ。その下には白樺の原生林が昔の姿を留めている。





ちはせ川温泉に向かう途中で有珠山テーマパークに寄る。売店に飾ってあったヒグマの剥製はとてつもなく大きく、ものすごく長い頑丈そうな爪。「野生のヒグマに会いたい。」と言っていた私は発言を撤回。しかし、熊本圓の中で飼われていた子熊たちはみすぼらしく、緑がない太陽

のがんがん当たるコンクリートの中で生活していた。かわいそうになった。大人のヒ グマも1頭いたが、狭い畜舎の中で、身の置き所がないようだった。

それにしても、中国の観光客の多いこと。これまで、北海道の大らかさを堪能していた身に は、彼らの喧騒がいつになく、堪えた



こんなものが畑の中から出てきたのか、昭和新山はニュースで目にしていたものよりとて



つもなく大きかった。ロープウエイで 有珠山に登ると、下で見た形よりも、 もっとごつごつしていた。これらを買 い取って観察をし続けた郵便局長さ ん。様々な人の力で、ジオパークは保 たれている。

暫く西側の海岸線を走り、山道を登っていくと宿泊先の「ちはせ川温泉旅館」があった。何もない所にぽつんと建っていた。客は私たち4人だけ。これで、経営が成り立つのだろうかと他人事ながら、心配。宿泊客の割に部屋

数は多い。時期になると、客は増える? 鉄を含んだ温泉はすこぶるよろしい。これを目当てに来る人もいるかも、有名な滝もあるらしいし…。ちはせ川温泉旅館の夕食は山のもの、海のものと、至れり尽くせりだった。

7月26日(水) 雨 のため写真はありません

霧雨で天候が危ぶまれたが、午前中は保つとの天気予報で、宿を出発。登山口に近づくと雨。しばらく様子を見て小雨になったので登山開始。途中、かなりの雨になってしまい、濁流のように水が登山道を流れ出した。山頂近くのお花畑には「アオノツガザクラ」が大群落をつくっていた。晴れていたらもっと素晴らしいのにと思いながら足早に通過。山頂の標識にタッチして、急いで下山する。どんどん雨は激しくなり、小石も登山道を流れ出した。もう少し、遅かったら大変だったかもしれない。登山口に下山しほっとする。宿泊した宿の好意で温泉に入り、汗と雨で濡れた衣類を着替えた。

宿を出発しようとした時、一組のご夫婦が到着。「こんな辺鄙なところに客がくるのかしら」、は取り越し苦労のようだ。

北海道を堪能した旅だった。以前、CMで「北海道はでっかいどう」というのをやっていたが、その通りだ。これまでも何回か訪れたことはあるが、北海道の広さを満喫した旅は初めてだ。

国道を 70 キロで走っていた。後ろからパトカー。(ああぁ、もうすぐゴールドに戻るところだったのに…、北海道は 10 キロでも違反?)と観念したら、お巡りさんが降りてきて、「千葉の方ですか。北海道の道は真っ直ぐなので、ついスピードを出しちゃうんですよね。気を付けてくださいね。」と優しく注意。

ありがとう、おまわりさん、と心の中でお礼を言った。

旅の途中、キタキツネに会った。1匹は足に怪我を負っていた。もう1匹は痩せこけていた。2匹とも車道の真ん中に出ていた。車中からの食べ物を期待しているから、と井上さんに教えてもらった。野生と人間との距離が縮まるのは、彼らにとっては不幸なことだろう。エゾシカも見た。オジロワシも見た。いつまでも彼らの暮らす世界が狭くならないように祈る。

北海道のおまけはマダニだった。どうも白雲山から連れ帰ったようだ。島牧村の診療所で取ってもらったが、診療時間をとっくに過ぎているにも関わらず、当たり前のように見てくださった医師に感謝。看護師さんの「(誰かが)来ればいつでも診てますから…。(大したことじゃありません)」に、感激。

その老医師の「僕も昔は山に登ったが、…今はゴンドラかロープ―ウェイがいいな。」に、 看護師さんと爆笑。(文責:寺崎眞理)